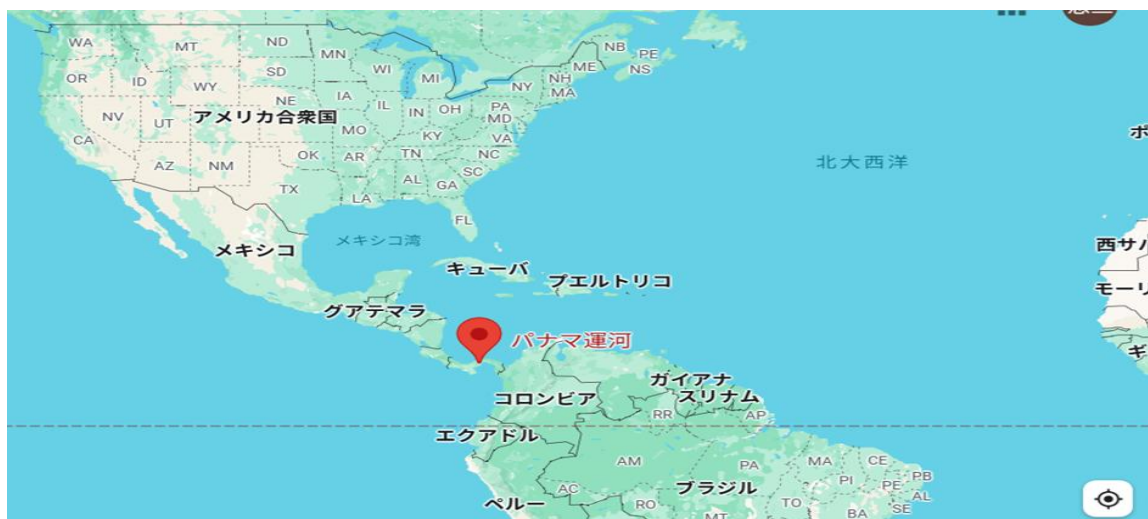


【2部】 パナマ運河の歴史とアメリカ

「世界史用語解説」 [appendix list](#) (←をクリック⇒世界の地歴へのご案内となります)

大西洋と太平洋を結ぶ、**パナマ地峡**に設けられた運河。1881(M14)年、フランス人**レセップス**が、建設に着手したが**失敗**。1903(M36)年、アメリカが、パナマを強引に独立させ、運河地帯の支配権を獲得し、翌年建設に着手し、1914(T3)年に完成させた。1950(S25)年代末にパナマで**返還**運動が強まり、アメリカは 1977(S52)年の**新パナマ条約**で返還を約束した。89(H元)年には、**パナマ侵攻**を実行、運河の支配維持を図ったが**国際世論の反発**が強く、99(H11)年に約束通り**返還**された。2025(R7)年1月アメリカ大統領**トランプ**がアメリカが取り返すと表明、パナマは**反発**している。



パナマ運河 GoogleMap

1. パナマ地峡

・ 1914(T3)年に開通した、北米大陸と南米大陸を結ぶパナマ地峡を横断し、大西洋と太平洋を結ぶ要地に設けられた運河。
1869(M2)年に開通した地中海と紅海～インド洋を結ぶスエズ運河に次いで建設され、現在、海上交通路の要地となっている。

スエズ運河に続いて、大事業に熱意を持つ仏人**レセップス**は、早くも 1879(M12)年、**パナマ運河会社**を発足させ、80(M13)年に着工したが、技術的に難航して会社が倒産し、中断された。その再開をめぐる、フランス国内で 1892(M25)年には、**第三共和政**を揺るがす**パナマ事件**という汚職事件が起き、**フランス**による運河建設は暗礁に乗り上げ、失敗した。

代わって、**中南米**を勢力圏に置く**アメリカ合衆国**の**セオドア＝ローズヴェルト**大統領が、1903(M26)年に、**コロンビア**に介入して、**パナマ共和国**を**独立**させて、直後の 1903(M26)年 11月 18日に、**パナマ運河条約**を締結して**建設権**を獲得し、1904(M27)年に**工事**に着工した。さらに **10年**の難工事の後、1914(T3)年 8月 15日に完成、**使用**を開始した。

スエズ運河は、砂漠の平地に造られ、同じ高さの海面を結んでいる**海面式**であるが、**パナマ運河**は一部の湖を利用しているが、内陸に最高地点海拔**26m**の山があるので、運河を階段状につなげる**閘門式**をとっている。その分だけ**難工事**であった。

2. レセップスの着手と失敗



世界の船舶が**帆船**から**蒸気船**への移行が進んだ**1870**年代、**スエズ運河**が、ようやく黒字に転換し、運河の有効性が高まったのを受けて、**大西洋**と**太平洋**を結ぶ運河の建設計画がもちあがった。

1876(M9)年、国際地理学会は**レセップス**を委員長とする両洋間運河開鑿委員会を設置し、

78(M7)年に**コロンビア**政府より開鑿権を得た。

79(M8)年、**レセップス**を代表とするパナマ運河会社が設立され、

80(M9)年に**工事が開始**された。**レセップス**は、スエズと同じ**水平式**で可能と考えたが、両洋の**水位の違いが大きく**、途中から**閘門式**に切り替えた。

閘門の工事技術者として、**エッフェル塔**を成功させた**エッフェル**が招聘された。

3. パナマ事件

しかし、熱帯雨林が工事の進捗を阻害したこともあって、工事費が、当初予想をはるかに上回る事となった。

レセップスは、フランス国内で**富くじ**を発行して資金を得ようとしたが売れ行きが悪く、結局資金繰りに**失敗**することとなり、**89(M18)**年には**スエズ運河会社**が**破産**し、**工事は中断**されることとなった。

翌年、フランスで運河会社の**富くじ**発行にからむ**贈収賄事件**が明るみに出、いわゆるフランス政界を揺るがした**パナマ事件**となり、

レセップス親子が**有罪**となって、**フランス**によるパナマ運河建設は完全に**挫折**した。

<大佛次郎『パナマ事件』1959(S34) 朝日新聞社 大佛次郎ノンフィクション文庫 9>

4. アメリカによるパナマ運河の開削

1849(嘉2)年に**ゴールド=ラッシュ**が本格化すると、アメリカでは船で**パナマ**に行き、**最も狭い地峡**（最短で**51**キロ）を**鉄道**で横断して、太平洋側を**船**で北上するというルートで**西海岸**に到達することを考えるようになった。そこで、**パナマ地峡**の**鉄道建設**に着手し、現地人や中国人（**クーリー**：タミル語、**19C**から**20C**初頭にかけての、**中国人・インド人**を中心とするアジア系の移民、もしくは出稼ぎの労働者）を酷使し「**最も短い大陸横断鉄道**」を完成させた。

この鉄道は、後にパナマ運河を、アメリカが建設する際に大いに役立った。
ただし、アメリカは、運河については当初、パナマでなく、内陸に湖があるニカラグアに着目し、南北戦争後には、ニカラグア運河を建設することを決めた。
しかし、この工事は難航し、開通の目処は立たなかった。

5. まぼろしのニカラグア運河

アメリカ帝国主義は、1898(M27)年の米西戦争 (Ctrlkey+クリックでご覧ください) のとき、大西洋側にいた軍艦をフィリピン攻撃のため太平洋側に回航させようとして、南米大陸を廻り、90日間かかってしまったことを機に、運河建設の気運が高まった。



アメリカが、当初計画したニカラグアでの運河開鑿は、1902(M31)年に、ニカラグアで火山噴火が相次いだことから計画を変更し、

レセップスが放棄したパナマ運河の建設権を継承して工事を再開することに転換して、2億フランでフランスからその権利を買い取った。

6. アメリカの強引なパナマ独立工作

しかし、コロンビア議会が、アメリカの建設権を認めなかったので、アメリカはパナマ地域のコロンビアからの独立運動を軍事支援して、1903(M32)年にパナマ共和国を強引に独立させた。→ アメリカの外交政策 (Ctrlkey+クリックでご覧ください)

アメリカ＝パナマ間のパナマ運河条約



1903(M32)年 11月にパナマ共和国の独立宣言のわずか2日後に、アメリカ政府はパナマ新政府を承認、さらに13日後の1903(M32)年 11月 18日に、パナマ運河条約に調印した。

パナマ運河条約は、**第1条**でアメリカがパナマの独立を保障すると定め、事実上、パナマがアメリカの保護国であると明言している。

第2条は 10 マイル幅の運河地帯、および運河の関連事業にアメリカが必要だと

考える地域は、**永久にアメリカの支配下にある（永久租借権）**と認めた。

第3条では、運河地帯の**主権がアメリカにある**ことを確認し、**パナマの主権は、排除すると明記している**。このように、パナマ運河条約は、**パナマのアメリカへの実質的属国化**を、定めたものであった。

7. セオドア＝ローズヴェルトの棍棒外交

条約締結にあたって、コロンビア軍の反撃と民衆の抵抗が予測されたので、**セオドア＝ローズヴェルト**は、軍艦を**パナマ沖に派遣して圧力をかけた**。さらに、

パナマ軍を解体して国家警備隊に縮小し、1904(M33)年のパナマ憲法には、パナマの国内政治の安定のために、アメリカが軍事介入できるという条項を盛り込ませた。このような、セオドア＝ローズヴェルトの軍事力を背景にした**カリブ海域への強硬手段は、棍棒外交 (Ctrlkey+クリックでご覧ください)**と、言われた。

8. Episode 売国奴と言われた初代大統領

パナマの**アマドール新大統領**は、さすがに、このような**不平等条約には抵抗した**。**アマドール**は、交渉のため**アメリカに赴いたが、パナマの駐米大使バリーヤ（仏人技師）は、留守政府に電報を送り、至急批准しなければ、アメリカは****パナマ独立承認を取り消すと脅した**ため、留守政府は**条約を批准**してしまった。

アメリカの新聞は、**アマドール**が、セオドア＝ローズヴェルト大統領から、**巨額の金を稼いだと報道したため、アマドールは、初代大統領でありながら売国奴とも呼ばれている**。 <伊藤千尋『反米大陸』2007(H19) 集英社新書 p.87>

9. パナマ運河の完成

アメリカはパナマ条約締結の翌**1904(M33)年9月29日、パナマ運河の本格的開削工事に着手、開始から10年後の1914(M43)年8月15日に完成**した。

これによって、**ニューヨーク＝サンフランシスコ間を、1万5000キロ縮めて、アメリカ産業にとって、重要性が強まっていた**。この年は、**第一次世界大戦勃発の年**であり、アメリカは、その戦争でも、**パナマ運河が大きく役立った**。その後、**アメリカは、軍隊を駐屯させ、パナマを事実上支配し、その世界戦略の要**としていた。

10. Episode パナマ運河建設に参加した日本人

1904(M37)年、パナマ運河の開削が始まったとき、一人の日本人技術者が参加していた。**青山 土**（あきら）**※前年に東京帝国大学土木工学科を卒業し、新しい技術を身につけようと、パナマ運河掘削工事に参加した**。測量のポール持ちから始め、**有色人種**としては**異例の設計技師に採用**された。

※青山士：「ばなま運河の話」を3人の「先生」に捧げている。ウィリアム・ヒューバート・バア、内村鑑三、廣井勇の3人である。廣井が内村と札幌農学校同期生であり青山の大学時代の恩師で、敬虔なクリスチャンの工学博士であった。内村と廣井は学校卒業後にアメリカで生活した経験があり、青山のパナマ行を支援した。明治の初期にパナマ運河建設に拘われた東洋人は、青山ただ一人だったという。

青山は、運河完成の2年後に帰国し、荒川の改修工事に参加した。

1910 (M43)年の大洪水では、東京に浸水家屋27万戸、被災者150万をだつた荒川治水は、東京府の大事業であり、青山の新知識が活用されて荒川放水路が完成した。

現在、荒川治水資料館(荒川知水資料館)は、パナマ運河博物館と姉妹提携をしている。

<山本厚子『パナマから消えた日本人』1991 山手書房新社 p.73-84/吉岡逸夫

『平和憲法を持つ三つの国—パナマ・コスタリカ・日本』2007 明石書店 p.91>



青山士 (あおやま あきら)

1878年9月23日 - 1963年3月21日は、日本の土木技師、内務官僚。位階は従三位。勲等は勲三等。公益社団法人土木学会名誉会員。ニューヨークセントラル・アンド・ハドソンリバー鉄道、パナマ運河工事委員会での勤務を経て内務技師となり、内務技監、社団法人土木学会会長。蹴上インクライン 日本遺産 琵琶湖疏水
【青山士 (前・後編)】 [いかに生きるべきか?](#) [青山士氏の歩いた道](#)

11. アメリカのアジア進出

第一次世界大戦前のアメリカは、中国進出に後れをとり、1899 (M32) 年に門戸開放宣言を主張したにとどまっていた。その間、日露戦争後は、日本が大陸への進出を活発化したため、アメリカも神経をとがらせていた。そのような中、1914 (T3) 年にパナマ運河が開通したことは、アメリカが、太平洋方面、さらに中国大陸への関心を強めることとなり、ワシントン会議を経て、1920 (T9) 年代のワシントン体制での日本との対立に結びついている。

→ [アメリカの外交政策](#)

12. F=ルーズヴェルトの善隣外交

アメリカによる

パナマ運河地帯の支配に対するパナマ人の不満は次第に高まっていった。

1925年には、初めて反米暴動が起こり、アメリカ政府も対応を迫られ、善隣外交を掲げた

フランクリン=ローズヴェルト大統領は、パナマとの交渉に応じて、1936年には、運河地帯の本来的主権が、パナマにあることを認めた。

→ [アメリカの外交政策](#) (Ctrlkey+クリックでご覧ください)



13. 太平洋戦争とパナマ運河

日本の中国・東南アジア進出はアメリカを刺激し、日米関係の緊張が高まると、アメリカは、口実を設けて、パナマ運河の日本船通過を禁止した。アメリカ海軍を、大西洋側の拠点から、太平洋方面に移動させるためのパナマ運河の戦略的な重要性が増すこととなり、アメリカは、運河防衛を最重要課題とした。

1941年12月7日（米時間・真珠湾攻撃前夜）、日本軍の真珠湾攻撃が開始され太平洋戦争が勃発すると、ワシントンのF＝ルースヴェルト大統領は「パナマ運河は無事なのか」と尋ねた。

ただちに、パナマ運河地帯のアメリカ軍に指令が飛び、パナマ議会も日本に宣戦布告、パナマ官憲と米軍によって、パナマ在住日本人238人は拘束され、さらに、コスタリカ在住の日本人も加えられ、バルボア市の収容所に収容された後、アメリカ船で米本土の収容所に送られた。

こうして、パナマ在住の日本人忽然と姿を消した。

<山本厚子『パナマから消えた日本人』1991 山手書房新社 p.149-161>

14. Episode 日本潜水艦のパナマ運河爆破計画

日本海軍は実際に、パナマ運河攻撃作戦を立案していた。それは「潜水空母」で、パナマ運河に近づき、浮上して格納していた飛行機を艦上で組み立て、発進して空襲するという大胆な作戦であった。

そのため建造された伊四〇〇と伊四〇一は、全長122m、幅12m、排水量3445トンで、攻撃機3台を収容できる。これは、1959年にアメリカの原子力潜水艦トライトンが建造されるまで、世界最大の潜水艦だった。

1944年12月から翌年1月にかけて、二隻の潜水空母が完成、攻撃機「晴嵐」を搭載して、第一潜水隊を編成、能登の七尾湾で、訓練を続け出撃の機会を探り、当初は、ニューヨーク、ワシントンの攻撃も検討されたが、45年3月に「パナマ運河爆破計画」に変更された。

それはすでに、ドイツの敗色が濃厚となり、欧州戦線が終結すれば、アメリカの艦隊がパナマ運河を経由して、太平洋に向かうことが予想されたからであった。

日本海軍がパナマ運河爆撃にそなえ、海軍は、運河建設に参加した青山士（あきら）に、運河の図面の提供を求めたが、青山は「わたしは造ることは知っているが、壊し方は知らない」と答えたという。

結局6月に沖縄戦が始まり、伊四〇〇・伊四〇一もその救援作戦に向かうこととなった。出撃予定は8月25日とされたが、出撃前に敗戦となり、実戦に参加することなく

「まぼろしの潜水空母」に終わった。

なお横須賀の母港に戻った二隻はアメリカ軍の徹底的な調査を受けた後、翌年5月と6月に海に沈められた。<山本厚子『同上書』 p.183-189>

15. 新パナマ運河条約（パナマ運河返還条約）

第二次世界大戦後も、さらにパナマの反米運動が続き、特に1956(S36)年に、スエズ運河国有化が、実現したことから、パナマにおいても、全面返還を求める声が強まった。

1968(S43)年には、パナマでクーデターによって権力を握ったトリホス将軍は、民族主義を前面に押しだして、国際世論に運河返還を訴え、アメリカで共和党政権から代わった民主党政権のカーター大統領のもとで、1977年9月に、アメリカ・パナマ間の新パナマ運河条約（パナマ運河返還条約）が成立、1999年までに、アメリカの主権を終了させ、パナマに返還することが約束された。
・・・それを、今度はトランプ大統領が、アメリカに取り戻すと宣言したのである。

16. Episode 1 票差で批准された新パナマ運河条約

カーター大統領が、パナマ共和国との間で、運河の返還を約束した条約は、アメリカ国内で共和党を始め、右派や軍の猛反対を受けた。

しかしカーターは、「米国は他国を支配するのに十分すぎるほど強大だが、対等な相手として威厳と尊敬をもって遇する。それが、民主国家として、世界中に大きな影響を与えることを可能にする」との信念を崩さなかった。

上院での条約批准承認は、必要票数をわずか**1票だけ上まわる緊迫した採決**だった。歴史家は、もし、国民投票だったら、批准されなかつたらうと見る。
事実、賛成票を投じた議員の大半は再選されなかつた。
<『朝日新聞』1999/12/9 朝刊>

17. アメリカ軍のパナマ侵攻

しかし、その後、新パナマ条約を締結したパナマのトリホス将軍が事故死して（アメリカの関与も疑われている）、軍事独裁政権がノリエガ将軍に交代すると、アメリカのブッシュ（父）大統領は、ノリエガの軍事政権が、反民主主義的で、麻薬密輸などに関与しているという口実を設け、1989（s64/H元）年末に、パナマに侵攻して実力で政権を排除し、パナマ運河支配権を守ろうとした。

18. パナマ運河返還の実現

このようなアメリカの軍事力を背景とした覇権主義は、国際世論の反発を受け、また冷戦の終結、ソ連の解体という国際関係の激変のなかで、アメリカはパナマに対する軍事支配の維持をあきらめ、

新パナマ運河条約の約束どおりに、

1999 (h11) 年 12 月 31 日を以て、パナマ運河地帯の主権を放棄して、パナマ共和国に返還した。

こうして、パナマ運河はパナマ共和国の管理運用下に置かれることになり、独立以来 **96** 年で初めて、国土の全域に主権が及ぶこととなった。

→ パナマ共和国 (Ctrlkey+クリックでご覧ください)

19. パナマ運河の拡張

パナマ運河は現在、**一日平均 39 隻**、**年間 1 万 4 千隻**の船が通過し、その通行料は、パナマにとっての**大きな収入源**となっている。
更なる船舶の大型化に対応した運河の拡張が課題となってきた。

2006 年 10 月、運河の**通航容量**を約 **2 倍**に引き上げるためのパナマ運河**拡張計画**が、国民投票で承認された。

世界の物流の効率化、運河の近代化を図ることを目的とする

総事業費 **52 億ドル** (≒7,800 億円)、工期予定 **8 年**という巨大事業である。

実際には **2 年遅れて 2016 (h28)** 年に完成した。

20. News トランプ、パナマ運河奪還を言い出す

2024 年 11 月に、アメリカ合衆国大統領選挙に勝ったドナルド＝**トランプ**が、**12 月 21 日**、自身の **SNS** でパナマ運河の管理権をアメリカに返還するようパナマ政府に要求する可能性があると発言した。

1999 (H11) 年にアメリカが運河に対する**主権**を放棄し、パナマ共和国に「返還」したが、その歴史の歯車を大きく逆転させようというトランプの発言は、そのグリーンランド買収発言と共に、世界を驚かせた。

トランプの主張は、パナマ運河の**通航料**はアメリカの船舶に対して、不当に高額になっており、「わが国の海軍と商業は極めて不公平かつ不適切に扱われている。パナマが、課している**通航料**はばかげている」というものだ。

その背景には、**中国**の影響力がパナマ政府にも及んでいるという認識があり、中国に対して、牽制する意図があったと思われる。

→ A F Pbb 国際ニュース 2024 年 12 月 22 日 (Ctrlkey+クリックでご覧ください)
毎日新聞 2024/12/27 記事 (Ctrlkey+クリックでご覧ください)

21. カーター元大統領の死

トランプがパナマ運河の奪回を声高に言い出す一方、**1977 (S52)** 年に、新パナマ運河条約を締結して運河のパナマへの返還を約束したカーターアメリカ元大統領が、この **2024 年 12 月 29 日**に **100 歳**で死去した。

民主党カーター政権は、イランのアメリカ大使館人質事件での人質救出作戦に失敗して人気を落とし、共和党レーガンからは弱腰外交と非難されたが、中東和平の促進などで、重要な役割を果たした。

その仕事の一つがパナマ運河の返還であったが、それがトランプ新政権によってひっくり返されようとしているとは、思ってもいなかったのではないだろうか。

→ [カーター大統領死去 NHK News](#) (Ctrlkey+クリックでご覧ください)

22. News トランプ大統領、就任演説で「運河を取り返す」

2025年1月20日、

ドナルド＝トランプ大統領は、ワシントンの連邦議事堂で就任演説を行った。その中で、セオドア＝ルーズヴェルト大統領の偉業の一つに含まれるパナマ運河について、それが「愚かにも米国からパナマの手に渡ってしまった」と、述べた後、次のように表明した。

(引用)

米国は、パナマ運河建設に、かつてないほどの巨額の資金を費やし、3万8千人の命を失った。私たちは、決してすべきでなかったこの愚かな贈り物によって、非常にひどい扱いを受け、パナマがわれわれにした約束はほごにされている。

米国の船舶はひどい過剰請求を受け、いかなる方法、形態においても公平に扱われていない。これには米海軍も含まれる。中国がパナマ運河を運営しているが、われわれは、中国ではなくパナマに運河を与えたのだ。米国は運河を取り返す。

<朝日新聞 2025年1月22日 朝刊 トランプ大統領就任演説>

それに対して、パナマ政府のホセ・ラウル・ムリノ大統領は運河が、中国によって運営されていることを否定し、「運河はパナマのものであり、今後もそうだ」と述べて、反論した。パナマでは、トランプ大統領に対する抗議行動が起こった。

中米パナマのムリノ大統領は、去る25年2月6日、中国の巨大経済圏構想「一带一路」からの離脱について、正式な手続きを開始したと明らかにした。トランプ米政権は、この地域での中国の影響力拡大を懸念している。

AFP通信によると、在中国パナマ大使館が中国側に離脱の意向を通告したという。また、米政府関係の船舶の通行量は無償とし、今後の過剰請求もなくす旨発表された。

→ [AFPbb 国際ニュース 2025年1月21日](#) (Ctrlkey+クリックでご覧ください)

→ [新パナマ運河条約](#) (パナマ運河返還条約) (Ctrlkey+クリックでご覧ください)

(2部了)